

宇佐美保育園の耐震性の課題に対する検討プラン

1 伊東市幼児施設連絡調整協議会の中間答申（R7. 3. 28）までの経過

伊東市幼児施設連絡調整協議会が令和 6 年 11 月 21 日から令和 7 年 3 月 25 日にかけて開催され、諮問事項として、①「宇佐美臨海テニス場跡地に津波避難機能を有する公立認定こども園を設置することについて」、②「施設設置に当たって必要となる機能について」の 2 点を諮問され、4 回の協議を経て、令和 7 年 3 月 28 日に中間答申された。（別紙）

中間答申を受け、田久保市政において対応を検討したところ、宇佐美臨海テニス場跡地への認定こども園建設計画については中止することとし、耐震性の劣る宇佐美保育園園舎から園児及び職員の安全確保を図るため、機能移転を最優先に検討を進めることとした。（R7. 10 市 HP にて公表）

2 建て方及び移転先の検討経過

保護者の意見を最優先することを念頭に置き、現実的に移転可能な場所、移転までの期間も宇佐美地区で保育を継続して受けられる環境を維持することを前提として建て方及び移転先を以下のとおり検討した。

建て方	検討内容
土地を取得して新築	× 新たな建設地の取得までの見通しが不透明
同じ場所で建て替え	× 建て替え中も使用を継続しなければならない

↓ 建て方のほかに、既存施設 4 か所を建設候補地として検討

建設候補地	検討内容
宮川分園	× 建物に耐震性が無く、耐震化工事または解体工事が必要となり時間を要し、立地に課題あり。
宇佐美中学校	× 空き教室や十分な駐車場が無く、小中一貫校の動きあり
宇佐美小学校	△ 校舎 1 階の一部のみ利用可能
宇佐美幼稚園	宇佐美幼稚園の継続が困難であり、そもそも宇佐美保育園の機能をそのまま移転させることは規模的に不可能。 △ 認定こども園化し、一体で検討すれば利用可能。

3 早期移転の実現可能な案

上記の検討内容から、新築または建て替えることが難しい状況である。建設候補地については、課題は残るが利用できる施設が宇佐美小学校と宇佐美幼稚園しかないため、保育園だけでなく幼稚園も合わせて機能移転することを考えた結果、「**サテライト方式による幼保連携型認定こども園を前提に、移転先に宇佐美小学校及び宇佐美幼稚園**」とすることで早期移転でき、耐震性が劣る宇佐美保育園での保育から解消され则认为る。

※サテライト方式とは、宇佐美小学校を幼児棟、宇佐美幼稚園を乳児棟とする分散配置形態。

※保・幼が一体施設となることによって、小学校との地域連携がより一層期待できる取組であると中間答申において示され、こども園化を進める。

4 サテライト方式による幼保連携型認定こども園（案）

(1) 配置・運用イメージ

移転先	宇佐美小学校 1 階【幼児棟】	宇佐美幼稚園【乳児棟】
クラス	1・2号認定（3～5歳）	3号認定（1～2歳）
定員	70人	20人
給食の提供	①宇佐美幼稚園に調理室を設置し、宇佐美小学校へ搬出。宇佐美小学校には配膳室を設置。 ②1号認定への給食提供（現在は弁当を持参またはデリバリー給食）	
送迎用駐車場	駐車場の増設、近隣民間駐車場、宇佐美臨海テニス場跡地及び宇佐美教職員住宅の活用	
津波災害避難	①避難場所である宇佐美中学校に近い宇佐美幼稚園を乳児棟 ②乳児部：おさんぽカーに乗せて避難 ③幼児部：小学生と避難	

(2) サテライト方式による開園までのスケジュール

令和8～9年度の2か年にかけて設計、工事を行い、令和10年度中の開園を目指す。

(3) サテライト方式とするメリット、デメリット

メリット	デメリット
①幼児部では小1プロブレムを防ぎ、連続性のある育ちと学びを保障することを目的とした保幼小連携の体現 ②宇佐美保育園内にある「子育て支援センターきしゃぽっぽ」を乳児棟に機能移転することで、遊びの場や育児相談が可能 ③幼児部と離れ、静かな環境を確保できる	①宇佐美小学校のチャイム、楽器演奏、生活音の影響 ②幼児部の園庭確保が課題 ③幼児部、乳児部の連携が希薄する恐れ ④宇佐美小学校及び宇佐美幼稚園は津波浸水想定区域のため対策が必要

5 サテライト方式による移転後の計画

園児の安全確保のため、宇佐美小学校及び宇佐美幼稚園に移転・開園を最優先に進め、当分の間は当該こども園を運営していき、新たな建設用地の検討を進めつつ、サテライト方式の運営状況と園児数の推移並びに学校統合の状況を検証の上、今後の園の方向性を検討する。